

市立病院劣化診断の詳細（特徴的なところを数点）

市立病院経営統括部

- ◎ 鋼管や銅管が最も多い。これは建設当時の公共施設における仕様に起因している。鋼管は衝撃に強く肉厚ではあるが経年劣化により腐食がしやすく、銅管は衛生的ではあるが柔らかく厚みの薄い管を使用したものとなっており、いずれも建て替えまでには、最低1回は更新することが前提となっている。
- ◎ 開院当初からの建物については全ての配管で更新が必要な時期を超過し、多くの箇所でも頻繁に漏水、蒸気漏れ、錆瘤による流量の減少、排水管の詰まりといった不具合が発生している。
- ◎ 現地調査サンプリング結果より、全ての配管において「評価：C」となっており配管全般が脆弱な状態であることが確認された。

【評価の基準】

A：腐食、管内閉塞などの劣化がほとんど認められない。

B：腐食、管内閉塞などの劣化が進行中である。

C：腐食、管内閉塞などの劣化が顕著に認められる。

◆各配管のサンプリング状況

<給水管>



<排水管>



<蒸気管>

